



生育量は多い傾向！ 生育診断を行い適期適量の穂肥を！！

6月30日現在の生育は、草丈は長く、茎数は多い傾向です。中干しが不十分な圃場が多く見受けられますので、暗渠排水などを利用しながら引き続き中干しを徹底し、適期に穂肥ができる稲姿に仕上げましょう。

また、これからは葉いもちや斑点米カメムシ類が発生する時期となります。農道・畦畔の草刈り、圃場内の雑草（ヒエ・ホタルイ等）の除去を徹底し、病虫害発生未然防止を心がけましょう。

◎現在の生育状況（6月30日現在の生育診断圃データ）（ ）内は平年対比

品 種	草 丈	茎 数	葉 齢	葉色 (SPAD)
はえぬき (5/10 移植)	56.1 cm (112)	674 本/m ² (97)	10.2 (+0.6)	40.1 (-1.6)
つ や 姫 (5/11 移植)	55.0 cm (113)	554 本/m ² (110)	9.7 (+0.4)	41.5 (-2.0)
雪 若 丸 (5/9 移植)	47.5 cm (108)	827 本/m ² (111)	9.7 (-0.1)	45.5 (-0.9)

技、其の一 中干しの徹底を！

6月下旬はまとまった降雨があり、中干しが不十分な圃場が多く見受けられます。**穂肥までに作溝の手直しを行い、暗渠排水を利用し、「小ヒビが入る程度の中干し」を確実に実施しましょう。**幼穂形成期から穂揃期にかけては水分と酸素を最も多く必要とします。中干し後は、走り水により徐々に慣らし、出穂前まで間断灌水（2日湛水して、2日落水するを、くりかえすこと）を続けましょう。

用水不足時の灌水を効率的に行うためにも、仕上げ作溝は早期に行いましょう。（特に高温・強風時における灌水を速やかに行うことができるため、稲体も保護されます）

※ 中干し後のKSK28の施用方法

①初期水位を1～2cm程度確保する。（水面はヒタヒタ状態にする）②水尻は閉じて30aに4.2kg1個（10分程度）を水口から流し込む。③流し込み後も入水を続け、水位8cm程度で止水。④流し込み後は3～5日程度止水し落水しない。

技、其の二 カメムシ対策はこまめな草刈りで！

病虫害防除所の発生予察情報（6月28日発表）では、斑点米カメムシ類の発生量は「**やや多い**」と予想されています。カメムシ類の増殖を抑えるため「こまめな草刈り」と「圃場内の雑草（ヒエ、ホタルイ等）の除去」を徹底し、地域ぐるみで発生密度の低減を図ることが重要です。また、**草刈りは8月上旬の無人ヘリ防除の前までに終わるようにし、その後は8月末まで行わないようにしましょう。**

☆葉いもちの発生に注意！！

今後の天候次第では葉いもちが発生する恐れがあります。葉色が濃いところや、昨年発生した圃場では注意深く観察し、発生が確認されたら最寄りの営農課へご相談ください。

技、其の三 出穂予想(6月30日現在)

☆今年の出穂期は、“平年並～1日早い”と予想しています。

ふくひびき	ひとめぼれ	雪若丸	はえぬき	つや姫
7/28頃	8/2頃	8/3頃	8/3頃	8/9頃

技、其の四 穂肥は的確な生育診断で適期に適量を！

穂肥が適期にできる稲の条件は①葉色が低下している②葉伸びしていない③茎数がすっきりしていることです。（下表参考）

品 種	葉色	草丈 (cm)	茎 数 (本/m ²)	穂肥対応 (N成分kg/10a)					
				-30日	-25日	-20日	-18日	-15日	-10日
はえぬき	4.8	60	630以下		2.0		(1.0)		
はえぬき(低地力)				1.0~1.5		1.5~2.0			
ひとめぼれ	4.5	60以下	630以下			1.5			(1.0)
雪若丸	5.2	55以下	670以下		1.5				
つや姫	4.8	60	550以下	1.5		みどり特裁穂肥028号			
つや姫(高地力)					1.2	化成肥料15-4-15, らくらく522, みなくちNK-20, 庄内穂肥専用545			
ふくひびき	5.0	68以下			2.0				(2.0)

※（ ）内の数値は、状況に応じて実施する。

※葉色板(フジカラスケール)と葉緑素計 (SPAD) の換算値 (目安)

{(SPAD値)+10} ÷ 10 = 葉色板の値 (例) (38+10) ÷ 10 = 4.8 ← 葉色板の値

技、其の五 葉色が濃い稲への対応！

はえぬき (11.0葉期) 出穂前25日の葉色	5.0以上⇒ N成分1.0kg/10aに減肥して施用する。ただし(4.0以上) 葉色5.5以上の場合、穂肥は行わない。(ケイ酸資材を施用)
ひとめぼれ (11.5葉期) 出穂前20日の葉色	4.8以上⇒ 葉色低下を待って対応、ただし出穂前10日になっても(3.8以上) 葉色が濃ければ穂肥は行わない。(ケイ酸資材を施用)
つや姫 (10.5葉期) 出穂前30日の葉色	4.9～5.1⇒ N成分1.0kg/10aに減肥して施用する。(3.9～4.1) 5.2以上⇒ 25日前までに適正葉色まで低下しない場合、穂肥は(4.2以上) 行わない。(ケイ酸資材を施用)

技、其の六 倒伏軽減対策！

生育が過剰となり倒伏が懸念される場合には、倒伏軽減剤を使用します。

○ひとめぼれ

稈長 82 cm 以上となり、倒伏が懸念される出穂 20 日前（11.5 葉期）の稲姿

草丈 (cm)	葉色	生育量 (cm×本/m ²)	1 株当り本数 (70 株植え)
62	5.0	39,000	30 本以上

◆使用薬剤

薬剤名	使用時期	使用量	備考
ロミカ粒剤	出穂前 25～10 日	2～3 kg/10 a	上位節間伸長抑制
スマレクト粒剤	出穂前 20～7 日	2～3 kg/10 a	

※特別栽培米は、倒伏軽減剤及び倒伏軽減剤入り肥料は使用できませんのでご注意下さい。

※スマレクト粒剤の重複散布や多量散布は、後作物や次年度の作物に影響する場合がありますので使用量に注意しましょう。

※窒素肥料が使用できない圃場には、ケイ酸資材を使用しましょう。

<直播情報>

◎湛水直播(鉄コーティング直播)は中干しの時期に入りました。根張りを良くし、耐倒伏性を高めるため、中干し開始の目安となる 470～530 本/m²を確認して、時期を逃さず実施して下さい。茎数不足の圃場では、つなぎ肥や浅水管理で引き続き茎数確保に努め、遅くとも 9 葉期(7 月上旬)までには中干しに入りましょう。

<大豆情報>

◎降雨時は、こまめに圃場を見回り、早期に明渠の手直しなどを実施し、停滞水の排水に努めましょう。大豆の根を湿害から守るため、できるだけ速やかな排水対策を行いましょう。

◎天候に合わせ、**培土**を遅れずに実施しましょう。(雑草対策も！)

◎食葉性害虫やアブラムシ類の発生が心配されます。高温・乾燥で発生が急増した過去の例もありますので、圃場・生育観察で早期発見・被害防止に努めましょう。

<農薬飛散防止対策について>

残留農薬等のポジティブリスト制度に伴い、粉剤等で防除を実施する場合には、周辺の園芸作物の種類、収穫時期等を事前に把握し、農薬の飛散防止・低減対策を確実に実行しましょう。ドリフトが原因で農産物が流通(出荷・販売)不可になった場合、原因となった農薬散布者の責任となります。散布時には、風速・風向に注意して下さい。

しっかり育てよう！庄内みどりのつや姫・雪若丸



しっかり中干しを行い、バッチリ穂肥のできる稲姿に仕上げよう！

●穂肥時期は、「雪若丸」は出穂の 25 日前、「つや姫」は有機質入り肥料で出穂の 30 日前です。遅れずに穂肥ができるように準備しましょう。

●葉色の濃いつや姫には、適期適量の穂肥施用ができません。茎数が多い・葉色が濃い圃場では、やや強めの中干しを継続しましょう。

園芸情報

長ねぎ栽培の露地秋冬どりの管理について

長ねぎ栽培は春先に収穫を行う春どり栽培(春ねぎ)、7 月～9 月末まで収穫を行う夏どり栽培(夏ねぎ)、10 月以降に収穫を行う秋冬どり栽培(秋冬ねぎ)があります。秋冬どり栽培は、水稻の田植え後に定植や稲刈り後に収穫の作業を行うことができますが、病害虫への対策や適切な管理作業を行わないと収量や品質に影響を及ぼします。下記のポイントを押さえて、高品質・高収量な栽培を目指しましょう。

○使用品種

「大河の轟き」、「森の奏で」などの晩生品種を使用します。

○栽培管理

§ 播種時期：3 月上旬～4 月上旬

高温対策として、発芽するまでは遮光資材を活用し、発芽後は外して光を当てましょう。高温期に向かっての育苗となるため、乾燥に注意し適宜灌水します。

§ 定植時期：5 月中旬～6 月上旬

気温が高く苗の生育が早いため、老化苗にならないよう適期に定植しましょう。

§ 収穫時期：10 月上旬～12 月中旬

年によっては雪が早く降るため、降雪前までに収穫を行いましょ。

【ポイント】

①明渠など圃場の排水対策を徹底しましょう。

②雑草が小さいうちから除草を行い、ねぎの生育に合わせて土削りを行います。除草は朝方と夕方の涼しい時間帯に行い、日中はやめましょう。

③土削り、土寄せは適期に行いましょう。時期が早いとねぎの太りが悪くなり、逆に遅いと台風や強風で倒伏する恐れがあります。また土寄せに合わせて追肥を行いましょ。追肥の目安量は窒素成分で 3～4kg/10a を 3 回です。

③土寄せ時は軟腐病に注意しましょ。高温時の土寄せや灌水は厳禁です。土寄せ時は殺菌剤の散布を行い、軟腐病の発生を防ぎましょ。

④収穫時期の 10 月以降は気温が下がり雨も多くなるため、病気の発生に注意しましょ。特に赤さび病は気温が低下すると発生しやすいため、発生しないように、降雨前や収穫前には殺菌剤で防除を行いましょ。

注意！毎年ドリフト被害の相談があります。ドリフトが原因で農産物の流通(出荷・販売)が不可能になった場合、原因となった農薬散布者の責任となります。畦畔及び転作田の除草剤(茎葉処理液剤)を散布する際は周辺作物に十分注意し、風のない日と時間帯を選び、ドリフト低減ノズルと飛散防止カバーを必ず使用しましょ。

★次号の発行は7月20日です！